

学校給食センター（浅科・望月）の集約化に関する意見募集の実施結果

1 意見募集の概要

- (1) 意見の募集期間
令和4年12月1日（木）から令和4年12月15日（木）
- (2) 周知の方法
ア 市ホームページ・SNS（ツイッター・LINE・フェイスブック）
イ 浅科・望月地区小中学校、保育園、幼稚園に安否確認システム緊急連絡網による一斉通知（白鳩幼稚園は保護者宛て文書による）
- (3) 方針（案）の公表方法
ア 市ホームページへの掲載
イ 佐久市役所市民ホール、各支所総務税務係窓口、学校給食課窓口に関連用として設置
ウ YouTubeによる説明動画配信
- (4) 意見の募集方法
ア 電子メール
イ 郵送
ウ ファックス
エ 直接持参（佐久市教育委員会 学校給食課）

2 意見募集の結果

- (1) 提出された意見 8件（うち原案賛成又は概ね賛成2件） ※
- (2) HP閲覧回数 101回（12/1～12/15）
- (3) 説明動画視聴回数 95回（11/24～12/16）
- (4) 提出された意見とそれに対する市の考え方
次のとおり

※ 全件電子メールにより寄せられた意見

番号	カテゴリ	意見	回答
1	配送	最大の目的は予算削減かと思いますが配送する車の維持管理、燃料費など長期的に考えると近い方が良いのではないかと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・ この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 ・ 今回の集約化の最大の目的は、浅科センターの老朽化等を踏まえ、児童生徒に安心安全な給食の提供を継続していくことにあります。 ・ この目的を達成するため行政として、効率的かつ効果的な方法を選択することが必要であり、その1つがコスト面であります。 ・ 集約化についての説明資料9ページにありますとおり、集約化により2つの施設が1つになった場合のランニングコストは、年間約1,500万円程度の削減が見込まれます。ランニングコストには配送に要する人件費、維持管理費、燃料費等も含まれます。 ・ 参考までに、燃料費について現行と集約化後と比較しますと、走行距離が長くなることにより、年間約8万円程度（軽油単価150円での試算）増える見込みではありますが、その他配送車にかかる維持管理費については大きな差が生じることはないと考えております。
	給食の質	また給食の質が落ちない、また職員が気持ち良く働ける環境であれば良いと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の望月センターにおいては、集約化に向けた一部改修を行い、アレルギー対応など、より質の高い給食を提供してまいります。また、引き続き、衛生管理はもとより職員が働きやすい環境づくりに努めてまいります。
2	アレルギー対応	自校給食を続けていただきたいです。アレルギー対応についても、あまり大人数を抱えてしまうより、現状どおりの方が対応しやすいのではないかと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・ この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 ・ アレルギー対応については、現在両センターにアレルギー専用調理室がなく、調理室の一角で、混入を防ぐために細心の注意を払って調理しています。特に浅科センターは調理室が狭く、さらに気を使う作業となっています。このため、この集約化に合わせて望月センターにアレルギー専用調理室を整備することにより、混入等のリスクを回避できるうえ、集約化により複数の目による確認もできることから、より安全安心な対応ができることとなります。
	給食の質	また、希望献立などにも対応できなくなるのではないかと心配です。何より、作りたてを衛生的に安全に、子供たちに提供していただきたいです。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望献立につきましても、望月センターは、かつて約1,000食の給食を提供していましたが、当時から手作り感も重視した希望献立を提供してきました。 ・ また、浅科センター独自で取組んでいる「読書旬間コラボ給食」など、児童生徒に好評である取組みは、引き続き実施してまいります。 ・ 集約化した場合、物理的な距離が長くなることから、浅科小中学校への配送時間が今より延びることになりますが、「待機時間」の短縮や学校時間割との調整など、学校及び現場職員と工夫する中で、可能となる時間短縮の方法を検討してまいります。 ・ 「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」適温での児童生徒への給食の提供のため、保温機能の高い食缶を導入することで、よりその効果が得られることから、当該センターのみならず全体的に順次更新を図ってまいりたいと考えております。

番号	カテゴリ	意見	回答
3	ランチルーム	<p>浅科給食室を残してほしい。 敷地がないのであれば、ランチルームの敷地を含め、二階建てにし、一階を調理室、二階をランチルームにすればいいと思います。 受け室から運んできた給食をランチルームで食べるのと、同じ施設内で作られた給食をすぐに食べるのでは、全然違うと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 「ランチルームの敷地を含め、二階建てとし、一階を調理室、二階をランチルームにすればいい」とのご意見につきましては、次の2点で難しいと考えております。 <ul style="list-style-type: none"> 1点目は、ご指摘の工事を行う場合、2年程度の工事期間が見込まれます。この間浅科センターの食数を別のセンターで調理し、配送しなければならず、受入れるセンターの改修や配送車の増車などの対応が必要となります。例えば望月センターで行う場合は、今回検討している改修工事等と同程度のことが必要で、短期間にもかかわらず、二重投資となる選択をしなければなりません。 2点目は、浅科センターの建築コスト面です。現在、浅科センターを単独で存続する場合と集約する場合を想定したコストは、説明資料のとおりですが、ランチルームは建て直しではなく、いわゆるリフォームを想定しております。一方、ご提案の方法ですと、ランチルームも含めて新築することとなりますので、今の想定される建設コストより、さらに費用が膨らむこととなります。 他の方法が無いのであれば市民の皆様にも理解を得ることは可能と考えますが、費用対効果等を鑑みますと現実的には難しく、市として、これを選択することは難しいことをご理解いただきたいと思います。 集約化した場合、物理的な距離が長くなることから、浅科小中学校への配送時間が今より延びることになりますが、「待機時間」の短縮や学校時間割との調整など、学校及び現場職員と工夫する中で、可能となる時間短縮の方法を検討してまいりたいと考えております。 「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」適温での児童生徒への給食の提供のため、保温機能の高い食缶を導入することで、よりその効果が得られることから、当該センターのみならず全体的に順次更新を図ってまいりたいと考えております。
	地産地消等	<p>浅科も望月も合併前に町の予算で作られた大切な施設だと思えます。それぞれの地域性を大切にしてほしいです。 特に、浅科は五郎兵衛米が給食にでてきて、全国的にもアピールできる特色があります。浅科の子どもたちも、他の小学校になく、誇れることだと思います。 子どもの数が減ってくるから合併でなく、その地域性をアピールし、逆に給食で呼び込むことができると思います。減るのを前提に考えるのではなく、増やす方向にまちづくりとして、各地域の給食室を大切にしてほしいです。 自分たちが暮らしている地域で作られた野菜や米を給食で食べることが、真の地産地消だと思います。いまできているのに、わざわざ合併する必要はないと思います。 同じ佐久市内でも、佐久平駅前が開発が進み、田畑が失くなってきています。新規就農をなさる方も、佐久平から近くて田畑もあり、景色もよい浅科が今後、視野に入ってくると思います。そのような方が、地域の小中学校に提供できたら、励みにもなると思います。定年退職後、自分の畑で農業を始める方も同じだと思います。地域の生産者を増やしていくためにも、各地域に給食室を置いてほしいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大切な施設だからこそ、浅科小学校のランチルームや望月センターを有効に活用させていただきようと考えております。 また、行政として、次の世代にできる限り負担を残さないように、今ある施設を効率的かつ効果的な活用を検討することも重要と考えます。 地域性は大切に、浅科・望月両地区が持つ地域の特色を、給食に反映してまいりたいと考えております。 五郎兵衛米は、引き続き大切な食材として献立に入りますし、望月産の美味しいお米も児童生徒に味わってもらうことができます。 まちづくりや新規就農を給食が担うことは難しいと思いますが、その一助となるとすれば、PR等にも努めてまいりたいと考えております。 地産地消については、限られた地域の中のものだけでなく、例えば佐久市産の農産物など、児童生徒に知ってもらうことも重要な取組みであると考えております。集約化後も、地産地消の取組みは、今までと遜色なく続けられると考えております。それには、引き続き両地区の学校給食応援団の皆様と連携を図り、安心安全な野菜や米を取り入れた給食の提供に努めてまいります。
4	地産地消等	<p>浅科学校給食について意見させていただきます。私は、浅科小学校・中学校のOGです。 私は給食が大っぴら好きで、浅科の給食は県内ナンバーワンいや、日本一美味しいと思っています。お米はブランド米の五郎兵衛米を食べることが出来て、運動会シーズンには地域の農場の黒毛和牛を食べることが出来て、地域の方との連携により新鮮な野菜・たまごが食べられる、また人数が少ないことによって他の学校には無い特別なメニューを食べることができ、手間のかかった給食が食べれる、出来たて熱々な給食が食べれる。そんな給食を9年間も食べ続けられたことに誇りを持っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 浅科センターの給食を「日本一美味しく、誇りを持ち自慢できる給食」という言葉をいただき、給食を提供する者として大変うれしく、ありがたく感じております。 両センターを集約化したとしても、小中学校で9年間食べてこられた、地元産をふんだんに取り入れた美味しい給食、独自の献立など、浅科の給食の魅力を絶やすことなく、望月センターにおいても引き継ぎ、望月地区の児童生徒とも共有できるよう努めてまいります。 例えば、お米では、浅科産五郎兵衛米、望月産コシヒカリを計画的に提供することにより、児童生徒は、両地区の特産を共有、体感することができます。 また、浅科センター独自の取組みである「読書旬間コラボ給食」については、大変好評でありますので、望月センターにおいても継承してまいります。 地元食材についても、浅科地区と望月地区それぞれで組織されている「学校給食応援団」との連携により、新鮮で美味しい野菜等の提供を引き続きお願いしてまいります。
	施設存続	<p>施設の老朽化などは仕方がないとは思いますが、合併などにより浅科の給食が無くなってしまうのはとても悲しいです。私は今高校三年生ですが、友達にも凄く羨ましがられる給食です。自慢できる給食です。だから、ぜひ無くさないで頂きたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回の浅科センターと望月センターの集約化につきましては、市教育委員会といたしましては、浅科センターの老朽化や、児童生徒数の将来推計、望月センター施設の有効活用、コスト面など総合的に判断して、望月センターへの集約化が最善の方法と考えています。ご理解をお願いします。

番号	カテゴリ	意見	回答
5	ランチルーム	<p>浅科センターと望月センターの合併は反対です。そもそも自校給食が大事だと思っています。私は浅科出身です。今はコロナの影響でムリかもしれませんが、私が小学生の時はランチルームで違う学年の人達と一緒に給食を食べていました。教室では味わえない大勢での給食はにぎやかで楽しかったです。ただ望月からコンテナで運ばれてくるならランチルームは不要かと思えます。できたての給食を調理員さんが出してきてそれをいろんな学年が集まってランチルームで食べるから意味があるのだと思います。給食を作ってくれる人の顔が見れたり、食べてくれる子ども達の顔が見れたり、言葉を交わしたりすることで作る人達は責任ややる気が沸いたり、子ども達は残さず食べようと意識すると思います。また年に1回センターの2階から見学するよりも普段子ども達が興味を持った時にいつでも覗くことができたり話ができたりする方が食育になると思っています。</p> <p>今、ランチルームは保護者の集まりやら、発表会の練習等でしか使ってないので、合併するならランチルームはやめて多目的スペースに造り変えた方がいいと思います。</p> <p>合併するにあたり望月センターも浅科小学校も改築するのに費用がかかるのですから、それなら浅科センターを建て直すのに使ってもらいたいです。</p> <p>臼田も望月も学校を建て替えて新しくなったので、浅科も建て替えてほしいくらいですが、予算的に厳しいなら給食センターくらい新しくしてほしいです。</p> <p>敷地が1.5倍くらい必要なら今のランチルームに給食センターを造り、今の給食センターにランチルームを作るというのはどうでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 浅科ご出身とのことで、ご意見から、ランチルームでの楽しい思い出をたくさんお持ちであることを伺うことができました。 ご意見のとおり、ランチルームは、浅科小学校の特徴であり今後も子ども達が楽しく過ごせる「食育の場」として、また、ご提案のように多目的スペースとしての利用も可能な施設として残してまいりたいと考えております。 当該地区の児童生徒数の減少傾向と、それに伴う既存施設の望月センターの機能を最大限に活用することができることなどから、今回の方針をお示ししています。 浅科センターと望月センターの集約化に係るコスト等の考え方については、No.3でお答えしたとおりです。
	意見聴取	<p>老朽化に伴い早急に結論を出さなければいけないとは思いますが、現在浅科と望月の小中学校に在籍している家庭だけでもいいのでアンケートを取り、合併に賛成、反対の割合をきちんと数字で表してもらいたいです。LINE等を使って浅科と望月の市民にアンケートをとってもいいと思います。その上で検討してほしいと思います。賛成多数ならしょうがないかなと思えるので。</p> <p>自校給食なら市営でも民営でもいいと思っています。</p> <p>今の浅科の子ども達だけでなく未来の浅科の子ども達のためにもぜひ自校給食は残してください。</p> <p>お願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 両センターの集約化に関する説明会等では、貴重なご意見をいただき、そのご意見等に対しましては、市では、丁寧な回答等を心がけ、市ホームページ等でも公表してまいりました。 そして、今回のパブリックコメントでは、ホームページで説明動画もご覧いただけるよう工夫をさせていただき、実施に当たっては、浅科・望月地区の児童生徒・園児の保護者の皆様には、オクレンジャー等で周知をさせていただきました。 こうした対応を経て行ったパブリックコメントの意見集約の状況等を踏まえ、全体的に賛同をいただくことは、難しいことではあります。両センター集約化の市の方針に対して、保護者や市民の皆様にご理解をいただいたものと判断できると考えております。 従いまして、これ以上のアンケート等の実施は予定しておりません。 なお、今回パブリックコメントでいただいた反対とするご意見等は、市といたしまして、真摯に受け止め、両センターを集約した場合も給食の質等が維持・向上できるよう努めてまいります。 自校方式かセンター方式かは、それぞれの自治体で状況を踏まえて検討してきたものであり、佐久市は機能集約に伴うコスト面や管理面等のメリットを総合的に考え、センター方式を基本としてまいりました。これまで他のセンターにおいても、提供している給食に対して、児童生徒等から不満の声など聞こえていないなど問題なく運営しておりますことから、現時点では自校方式は考えていません。 市といたしましても、浅科・望月地区の児童生徒のことを第一に考え、かつ、後世に負担を残さないためにも両センターの集約化は必要と考えます。ご理解をお願いいたします。
6	原案賛成	<p>「学校給食センターの統廃合について」事務局案について原案賛成します。</p> <p>尚、温かい食事の提供する為に小・中学校に加温設備の設置、及び、30分前の学校長試食は不要と感じます。献立や給食サンプルを一日提示しておく事により事故調査にも使えるし、提示することにより、子供たちも給食が楽しみにするのではないかと、PTAも現物を見て安心できるものと感じられます。</p> <p>一部提案したいと思えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 集約した場合でも、「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」適温での児童生徒への給食の提供のため、保温機能の高い食缶を導入することで、よりその効果が得られることから、当該センターのみならず全体的に順次更新を図ってまいりたいと考えております。 30分前の学校長の検食に関しましては、学校給食法に基づく学校給食衛生管理基準において義務化されており、現行制度上では省略できないこととなっております。ご理解をお願いします。 また、各センターで事故調査等のための保存食（サンプル）を-20度以下で14日間保存することが同基準にて義務付けられており、合わせて記録簿も管理しております。 貴重なご提案につきましては、今後の給食運営の中で参考とさせていただきます。
7	意見聴取	<p>よりよい施設の集約化を進めていくための市民の意見募集ということで、思いを伝えさせていただきます。平賀に住む五人のこどもを城山小の自校給食で学び育てていただきました。残念なことに、現在はセンターになっております。そこに繰り広げられた城山小PTAの活動さらには給食を考える会、そして今は食育クラブへと発展して、地域にこども達に根ざした活動がある。この1つのかげがえのない事例からなにが学べたのだろうか？そして今は望月の浅科の集約化としての提案。意見を振り返ってみても、どうも市とは平行線のような気がいたします。理解してほしいで、聞くだけは聞いたので、で、終わってしまうのか。そこに今の子ども達の思い、親の願い、未来のこども達へつなぐ誇れる内容はあるのか？どうも、大事な視点が市と、こども達親たち市民とはずれているように思えるのは私だけか？どうぞ丁寧に声を受け止め、検討し、現場の声を取り上げていただきたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。 地域の皆様に支えられた給食につきましては、浅科・望月地区でも学校給食応援団の皆様へ地元産の野菜等の提供や、食育活動への協力など、児童生徒の美味しく、楽しい給食を支援していただいております。両応援団の皆様には、集約化後も引き続き、浅科・望月地区の児童生徒の給食を支えてくださることに、ご理解をいただいております。 意見聴取に関する考え方は、No.5のとおりです。

番号	カテゴリ	意見	回答
8	食育	<p>集約された意見を参考に、食育、配送、コスト、将来性、災害対応の面から意見を述べさせていただきます。</p> <p>1 食育面 給食センターが併設されることで、調理員と児童とのふれあいが芽生え、食育の礎が自然に形成されるはずで、「授業に関連する食に関する指導」についても、身近で働く方にフェイスツウフェイスで指導していただく事で、食育が実りある物になると確信します。</p>	<p>この度は貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。</p> <p>1 食育面について 給食を通じた食育につきましては、各センターで栄養教諭を中心に取組んでおりますが、「食」の大切さは、学校給食と各家庭との両輪で伝えていくことが理想と考えております。 なお、学校での食育につきましては、今後も栄養教諭が各学校へ赴き、交流を深めるとともに、他の自治体等で実施している活動等も参考に食育の時間の充実に努めてまいりたいと考えております。</p>
	配送	<p>2 配送面 総務文教委員会の現地調査で望月センターを訪れ、給食を試食した際、調理責任者の方が、温かい物を温かく、冷たい物を冷たく児童、生徒に提供することを心掛けていると説明がなされましたが、集約化する事で配送に時間が係り、現実問題として、給食の鮮度が劣るのは避けられないはずで、集約前は、浅科センターでも、できていたことが、できなくなる事を考えると子供たちが不憫でなりません。</p>	<p>2 配送面について 集約した場合、物理的な距離が長くなることから、浅科小中学校への配送時間が今より延びることになりますが、「待機時間」の短縮や学校時間割との調整など、学校及び現場職員と工夫する中で、可能となる時間短縮の方法を検討してまいりたいと考えております。 また、佐久市議会総務文教委員会の現地調査で食べていただいた給食が美味しいと感じていただいたように、集約した場合でも、「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」適温での児童生徒への給食の提供のため、保温機能の高い食缶を導入することで、よりその効果が得られることから、当該センターのみならず全体的に順次更新を図ってまいりたいと考えております。</p>
	施設存続	<p>3 コスト面と将来 浅科センターが単独で存続する場合の施設平面図では、650㎡が想定と表示されていますが、必要最低限の面積なのか、それともマックスなのかわかりません。創意工夫をすることで、最小限で検討すれば、8億7千万円の事業費も縮減する事は可能であると考えます。尚、スクラップアンドビルドにこだわらなくても、一部を改修することで、長寿命化を図る事の検討をしても良いと思います。ここで集約しても、約20年後には望月センターの改修が必ず必要になる事は火を見るより明らかです。その時に浅科センターが稼働していれば、相互補完する事も可能です。</p>	<p>3 コスト面と将来について 資料でお示した650㎡の床面積は、参考文献「学校給食施設計画の手引き」を参考に、500人以下の規模から引用したもので、「実際の調理面積」の目安が650㎡とされています。従いまして、事務室、更衣室、トイレ、廊下等の附属施設の面積は含まれませんが、今回の試算ではそれらも含め650㎡を想定しています。 浅科センターは昭和57年の建築物で老朽化が進み、面積も現行の学校給食衛生管理基準に合致しておりません。現地のスペース等を考慮する中で一部改修による存続は難しいことなどから、集約化が現時点において最善の方法と考えております。</p>
	災害	<p>4 災害面 浅科地域は、土砂災害、洪水災害が想定される地域です。浅科小学校は指定避難所となっており給食センターが存続する事で、避難時に食料の煮炊きが可能であれば、住民の安心安全が確保できます。</p>	<p>4 災害面について ご指摘のとおり、指定避難所の敷地内に調理可能な施設が存在することは、より安心につながりますが、給食センターが併設されていない学校においては、校舎内の家庭科室等の利用も可能です。 また、浅科小学校周辺には保育所、児童館といった調理が可能な設備を有する公共施設も隣接しており、これらの施設の活用も考えられます。 なお、災害時の避難行動においては、避難者が自ら食料、毛布等を持参することが求められており、避難が長期化する場合は、市の災害対策本部等から物資、人員等の派遣を行い、可能な範囲で炊き出し等を行うこととなります。</p>
	意見聴取	<p>地域格差をなくし均衡ある発展を標榜するには、地域に無くてはならない物に対しては特段の配慮が必要ではないでしょうか。 尚、小学校、中学校の保護者へのアンケート調査を必ずお願いします。</p>	<p>その他 意見聴取に関する考え方は、No.5のとおりです。</p>